

研修医のためのリスクマネジメントの鉄則 日常臨床でトラブルをどう防ぐのか？

田中まゆみ 著

＜書評者＞ 邊見公雄（全国自治体病院協議会・会長）

このたび医学書院より『研修医のためのリスクマネジメントの鉄則——日常臨床でトラブルをどう防ぐのか？』が出版された。著者の田中まゆみ氏とは数回しかお会いしていない。いずれも研修医を対象とした研修会においてであったと記憶している。

その研修会では、ピカピカの研修医に対し医療界のガイダンスやオリエンテーションをはじめ、医師としての基本的な姿勢、「今日からは学生ではなくプロフェッショナルな“ドクター”ですよ」と“刷り込み”的な講義が2日間続いた。この第1日目の講師に田中氏と私が前になったり後になったりして講演したのである。この研修会では、残念ながら先日亡くなった COML の辻本好子さんも患者の立場から講演され、大変好評であった。田中氏については「どこかの看護系大学の教授かな」と思っていたが経歴をみてびっくり。大学の後輩ではないか。われわれ紛争世代が今もって悔やみ、

コンプレックスを抱いている海外留学の経験もあるではないか。

私の立場は、医療をできるだけポジティブに捉え、チーム医療の中に患者や家族も参加していただき、私が作った赤穂市民病院の“医療安全いろはカルタ”「と」の札「トラブルも 日頃の関係 ポヤで済む」に、という姿勢である。できるだけ楽しいホスピタルライフ、医療人としてのスタートを切って欲しいという話をボランティアの活動なども交えて紹介した。一方、田中氏の講演名は、本書の第3章のタイトルでもある「リスクマネジメントの ABCD」であった。

前置きが長くなってしまったが、本題に入ろう。本書の第1章にある「医師に求められるリスクマネジメント」は、患者を守り医療者も守るという大原則を忘れないう序論だけで目からうろこ、続くインフォームドコンセントの手順などは「そうさそうさ」とうなずくばかり。第3章に述べ

られている「リスクマネジメントの ABCD」は、著者の長期間にわたる多彩な米国での経験に裏付けられた結論であろう。第4章では医療事故の訴訟や再発防止対策、第5章ではさまざまなケースでのリスクマネジメントが例示されている。長い医師人生の中で、多くの医師が、きっと一度は同様のケースに遭遇するのであろう。

とにかく本書の著者田中氏の経歴をみれば、天理よろず相談所病院、マサチューセッツ総合病院、聖路加国際病院、そして現在の田附興風会北野病院と症例数と研修医など若手医師の多い医療機関ばかりであり、「研修医のためのリスクマネジメント」を著すのにこれ以上適任の方はいない、と考えるのは少し後輩への身びいきすぎるだろうか？ それは読んでからいっていただきたい!!

研修医はもちろん、指導医の方々、院長を始め幹部職員の皆様方にお読みいただきたい珠玉の一冊である。

●A5 頁168 2012年
定価2,625円
(本体2,500円＋税5%)
[ISBN978-4-260-00439-8]
医学書院 刊